

令和3年度 第1回富田林市認知症条例策定ワーキング 議事要点まとめ

会議名	令和3年度 第1回富田林市認知症条例策定ワーキング
開催日時	令和3年10月30日 土曜日 14:00~15:40
場所	富田林市きらめき創造館 (Topic) 3階スタディールーム
配布資料	別紙 次第のとおり

第1回目のワーキングでは、参加者の皆さんが自分の経験や現状を交えながら、自ら発言する機会を多く取りました。認知症の人やそのご家族だけではなく、医療・介護関係事業所の代表者や市の職員からも積極的な発言がありました。

発言の要約を、カテゴリ一別に分類しています。

発言分類	内容
経験 現状	<ul style="list-style-type: none"> ○夫の社会性を維持するためにも「認知症の会」に参加した。これからも継続して活動をしてもらいたい。 ○仕事はしたいが、一般企業で働くことはできない。しかし、できることもあると思う。 ○認知症ということで相手から敬遠された。 ○ある日紫水晶が届いてウン十万円請求された。 ○デイサービスを利用したが、利用中に興奮状態になるので精神科で内服薬を処方してもらうよう言われた。内服治療すると、これまで歩いていたのに歩けなくなった。 ○富田林市では様々な認知症施策を行ってきたが、認知症のご本人やご家族から意見を聞きながら進めることができていない。
制度 社会資源	<ul style="list-style-type: none"> ○市内のB型作業所を訪問して情報収集している。事業所によって特色は異なるが、若年性認知症に対応できる事業所も少ないながらある。 ○情報はたくさんあるが、必要な人が情報収集しなければ手に入れる事が出来ない。 ○認知症に関する情報が不足しており、介護者が抱える問題解決の糸口が見つからない。 ○必要な時に思い出して活用してもらえるような情報発信が課題である。 ○（同じ情報でも）何度も繰り返し発信しないと困った人には届かない。 ○妻が認知症になっても介護方法がわからなかった。 ○認知症でない方が興味を持ってもらえるような情報発信が大切。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ○（地域などで）認知症の人との関わりを持つときにどこまで関わったら良いかわからず躊躇する。 ○住民と施設（入所者や職員）が同じ地域住民として関わりを持つことが（できているかが）大切だと思う。 ○施設や事業者と地域住民の垣根をなくして自由に行き来できることが

令和3年度 第1回富田林市認知症条例策定ワーキング 議事要点まとめ

	<p>理想だと思う。</p> <p>○公園などを整備して、認知症になっても自然の中で安全に1日を過ごせる場所を作ってもらいたい。</p>
その他	<p>○作業所の職員が（若年性認知症）の対応に慣れていない。認知症の人ということで一律にサポートするのではなく、その人それぞれの能力に応じた支援をしてもらいたい。</p> <p>○認知症は早期発見・早期治療が大切</p> <p>○「認知症」は支えてくれる人がいれば生活ができる。そのため、周囲の人の理解が必要である。</p> <p>○認知症の人の意見を聞かずして制度を進めないでもらいたい。</p>